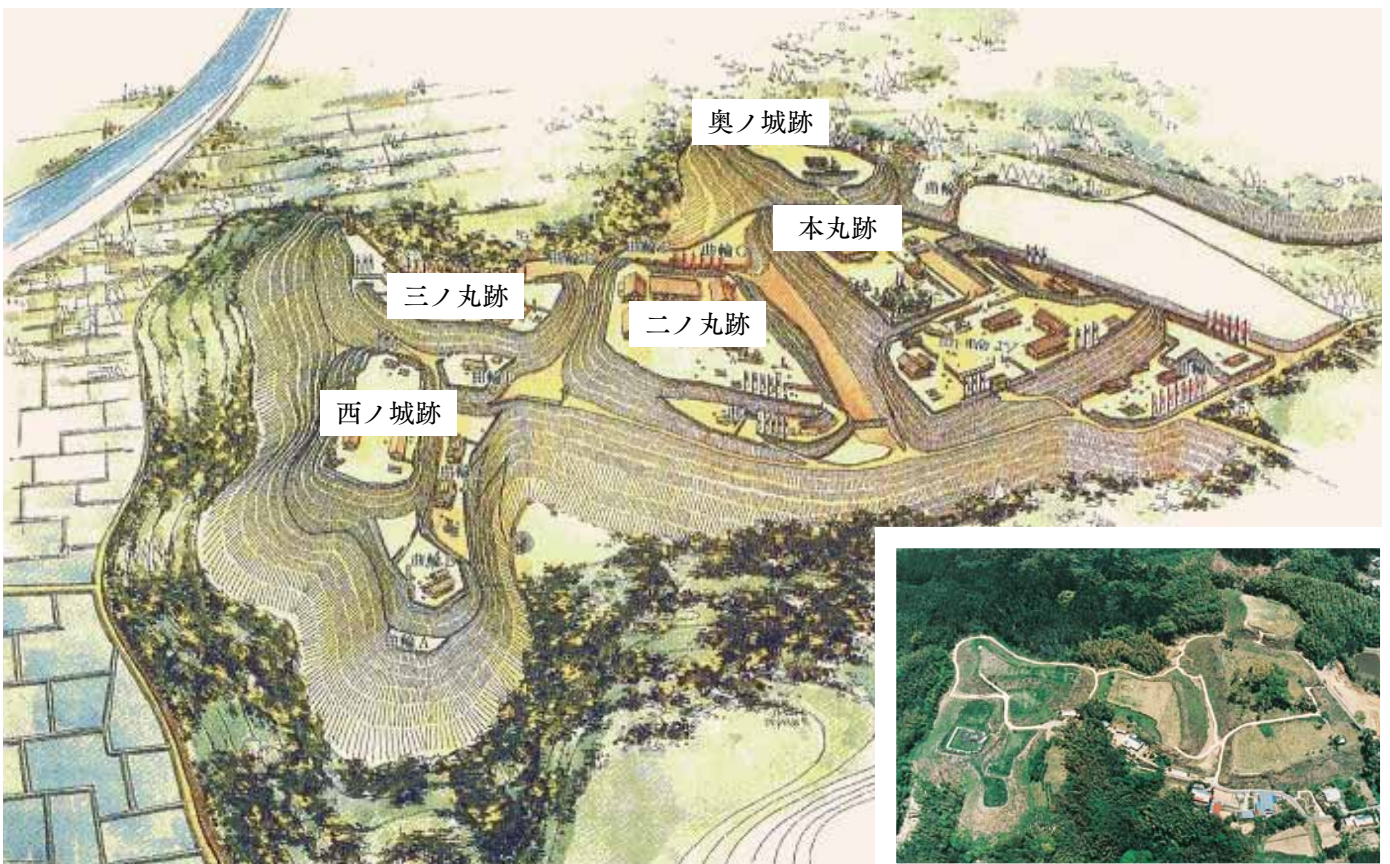


海原に漂う舟のような美観。 別名「浮舟城」



都於郡城跡

【とのおりじょうあと】



図：三木 靖氏

● 都於郡城跡の 発掘調査

西都市教育委員会では、平成13年度から、城の性格と機能及び保存整備データ蓄積のための発掘調査を実施しています。これまで、二ノ丸跡・三ノ丸跡、奥ノ城跡・本丸跡と二ノ丸跡間の空堀跡等を中心に確認調査を行いました。

調査の結果、二ノ丸跡では、少なくとも2つの虎口が存在し、門柱と思われる柱穴を確認したこと、堀立柱建物が幾度となく立て替えられた(内1棟を特定)こと等が判明しました。また、奥ノ城跡では、虎口南側に排水路を配した道路状遺構があり、多くの柱穴群と土塁の堆積及び構築状況等を確認することができました。さらに、三ノ丸跡では、柱穴群を確認することができなかったことから、他の曲輪とは違う機能を有していた可能性が高いことが判明しました。

本丸跡と二ノ丸跡間の空堀跡については、現在地よりもさらに地下3〜4m深く掘削されており、元々は高さ13〜14m、断面は「V」字に近い、かなり急峻な法面であったことが判明しました。その他、各曲輪は平坦地にするため大規模な造成が行われていることを確認しており、都於郡城が存続する過程の中で、多くの改変を繰り返して、現状の姿になったものと考えられます。